

新医療センターに産科の設置を！ ～8588筆、市民の願い～



佐藤美雪 議員

佐藤美雪議員は、「安心して住みつけられる地域医療をめざす会」が行った「新医療センターに産科設置を求める署名」第一次分が7日、市長宛てに提出されたことをあげ、8500筆以上の重要な世論である産科設置への市長の認識を質しました。まず、里帰り出産を希望する方を含む、市内で出産を望む女性たちが置かれている状況についての認識と将来を見据えた周産期医療の体制づくりについて、「現在の状況でいいと思っているのか。未来を担う子どもたちへ『子どもを産むことができないまち』と伝えてい

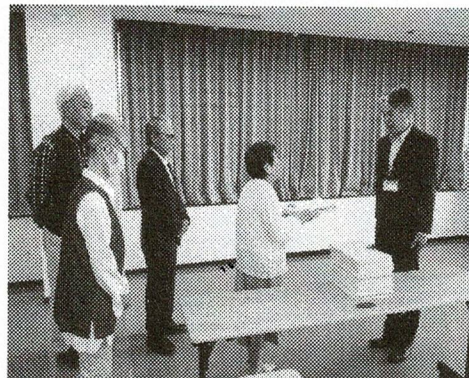
奥州市議会 6月定例会

6月7日、奥州市議会6月定例会が開会しました。日からは一般質問が始まり、佐藤美雪議員が質問に立ちました。

民報
おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049



安心の地域医療をめざす会が署名を提出。市長は対応せず…

くのか。『希望のないまち』になつてしまっているのではないかと、質しました。

市長に市民の願いは、 全く届かず…

倉成市長は、妊産婦さんの不安や負担を感じている状況と、新医療センターに産科設置を望む声があることも十分に理解している、とした上で、「産科設置の可能性を検討するため複数の専門家から聴取したが、やはり産科の設置は困難」との見解を繰り返すのみでした。

また、将来を見据えた周産期医療体制については、分娩ができない状況について何一つ真摯にこえず、「プレコンセプションケア、これは若者世代の健康教育だというふうに訳せるかと思うが、そういう所にフォーカスを当て、希望がないということにはならないような形で進めていく」と述べるにとどまりました。

産科医3人… 招へいに全力を尽くすべき！

佐藤議員は産科設置について、以前の説明では「産科医5人以上」であったが、新医療センター懇話会で示された資料や県の周産期医療に関する資料で「ハイリスク分娩対応には産科医3人以上」とあることをあげ、「市民の願いはこの地域での分娩。そのためにあらゆる努力を求めている。県知事とともに国へ医師確保を要望するべきだ。3人の産科医を招へいするべく、努力してほしい」と訴えました。



パートナーシップ制度、 今年度中に導入へ



同性同士、または事実婚カップルがパートナーシップ関係にあることを自治体が証明するパートナーシップ制度について、昨年2月議会でも取り上げていた佐藤美雪議員は、今議会でも当局を質したところ、今年度中に制度を導入する方向であることが示されました。

パートナーシップ関係を証明されたカップルは、市営住宅への入居や税務証明書等申請手続きの簡略化など自治体のサービスが受けられるほか、一部民間事業のサービスも利用できる制度となっています。

佐藤議員は、市の決断を評価したうえで、当事者のみなさんが受けられるサービスや市民への周知、理解を広げる取り組みについて質問。さらに長崎県大村市で住民票の続き柄に「夫（未届）」と記載して交付され

たことを例にあげ、「この制度がよりよいもの、当事者のみなさんの暮らしやすさにつながるように検討を進めてほしい」と、求めました。

当局は「6月28日に男女共同参画推進委員会を開催し、制度導入について諮り、7月に内容について庁内で詰めていく」と回答しました。

「しんぶん赤旗」日曜版の料金 改定への協力のお願い

「しんぶん赤旗」日曜版のご購読と、日ごろからのご支援、ご協力に心から感謝を申し上げます。

このたび、日曜版の料金改定がどうしても必要となり、月々の購読料を7月分から1か月930円（税込）を990円（同）に改訂させていただきます。異常な物価高騰、一方で賃金が物価高に追いつかず、年金も下がり、暮らし向きも厳しい状況に置かれているもとの料金改定はたいへん心苦しく、申し訳ない思いでいっぱいです。

今後、自民党の裏金問題をはじめとしたスクープや読者のみなさんに役立つ紙面づくりに全力を注いでまいりますので、ご理解と引き続きのご購読を心からお願ひ致します。